



1 子どもの様子からみた成果と課題（○成果、▲課題）

- 体育の苦手な子が得意な子のアドバイスによってできるようになり、「○○さんのおかげでできた」と帰りの会で発表することが増えた。
- 自己有用間を感じられるように各教科で意識して指導した結果、発表する子が増えた。また、友達をアドバイスしようとする子や友達のアドバイスを生かそうとする子も増えた。
- みんなががんばっているから自分も頑張ろうとする様子が見られ、結果学級の力が高まった様子も見られた。
- 体育では具体的な記録を提示することで「できた」を実感できる様子が見られた。
- 体育では、スモールステップの場を準備することで子供の不安解消につながった。
- チームで数を数える、学級全体でも数えるとチームや学級の一体感につながった。
- 体育授業の中で協力する、一生懸命に取り組むという姿勢は定着している。
- 体育好きの子が多い。集団達成できると学級の団結も高まる。
- チームで戦う単元では、ルールを教えあったり、作戦を考えたりする中で、チームワークが高まった。失敗しても責めないで、次頑張ればいいという雰囲気は少しずつ出てきた。
- サーキット形式のパワーアップタイムは、たくさん運動できた。技能の向上も見られ、「できるようになった」という肯定的な感想が多く聞かれた。
- 体育では友達とのかかわり、教え合い、声かけ等の言葉、よい所を見つけなおの場を意識することで、認め合いの和やかな空気が生まれた。技能の向上にも役立ったと思う。
- ▲子供同士のアドバイスや励ましは見られるが、苦手な子からできる子へのアドバイスは見られない。
- ▲勝ちにこだわる姿勢が低い、一方で勝ちにこだわるあまりケンカが起きることもある。勝ちに本気でこだわりながらも相手を傷つけない態度をとれるように指導していきたい。
- ▲指示待ちが多く、自分で考えたり、判断したりできる子が少ない。
- ▲本気で話し合ったり、課題を解決したりしようとする姿勢というか意欲が見られない。相手を傷つけないとする姿勢は大切だが、相手を尊重しながらも自分の意見や考えを本気で伝えていくような意欲を育てたい。ときには、意見が衝突することがあってもいいと思う。必要ならば、遠慮せずに伝えられる子を育てる必要があると感じる。

2 教師から見た研修の成果と課題（○成果、▲課題）

- 中野先生の講義、模擬授業によって、道徳の授業の流れがわかってきた。新年度も次の学級で生かしていきたい。
- 過去の指導案を参考に進められた。できるものは取り入れ、やるのが大変だったり、難しかったりしたものは変えて行った。掲示物が残っているとそのまま使えて便利だった。
- 全国発表に向けて、協力し合って研究を深められた。体育の授業イメージを共有できた。
- 学校全体で研究についての共有がはかれたのがよかった。
- 道徳の授業で、子どもたちが主体的に考え、ねらいをお深めていけるのかを考えて授業ができた。特に大切だと思ったことは、①導入で興味を持たせる、自分事としてとらえさせる工夫、②発問の工夫、ねらいに気付かせる、考え甲斐のある中心発問にする、③一問一答にならない話し合いの仕方の工夫。
- ▲体育で、話したり、考えさせたりする時間と運動の時間のマネジメントが難しい。どの発問で、どの手立てによって、子どもがどう考えるか、動くか子どもの思考の流れを考える授業は今後の課題である。

- ▲ブロック研修で学年が違って協力し合えるようにしたい。
- ▲道徳の研究授業が1本では学ぶ機会が少ないと感じる。やはり、何本か行い、みんなで研修できるようにしたい。
- ▲夏の道徳の研修が有意義であった一方、研修すればするほど難しさを感じている。
- ▲全国大会の授業はやはりすべて見たかった。
- ▲今まで図れていなかった研究の共通理解、研修組織としての体制づくりの充実、子どものよりよい成長に向けた目標の共有、共通理解の方法、教科指導、学級指導の具体的な指導方法の共通理解を図れたが、今後も多くの教員が異動するので、継続して伝えていきたい。

3 今後の研修について

- ・研究の進め方については、子どもたちが課題を解決するために積極的・自主的・主体的に取り組むにはどうすればよいか、子どもたち（集団）が仲間と対話し協力して解決する学習はどのようにして行えるのか、理論と実際を上手に絡ませながら研究を進めたい。
- ・学級経営研修会の話し合いは、今後も続けてほしいが同じ内容では意味がないこともある。1学期は学年で学級経営について学ぶ機会を増やすなど弾力的に行ってほしい。一般的な考え方や事例的な実践を聞くよりも実際の教室経営や子どもへの具体的な接し方などの研修も必要である。学級経営の実際を学年で揃えたり、相談に乗ったりすることも必要である。
- ・研究組織の役割分担を明確にし、資料などもしっかりと保存していきたい。
- ・体育の技能を身に付けさせる指導方法の研修を行いたい。
- ・学年で体育や道徳の授業前後に話し合う時間をとることで研究を深められるようにしたい。
- ・子どもたちの主体性を引き出すための手立てを考えたい。子どもに任せることができない、管理型教育を脱すべき。
- ・器械運動の具体的な指導方法を知りたい。道徳の自分事としてとらえにくい資料（畏敬の念、自然愛護などD項目）をどう指導するか知りたい。
- ・発問に特化した研修をしたい。
- ・道徳では具体的な活動方法や、必要な教具（心情円や自分の考えを表現するツール）の作成、評価方法の手立てづくりを行いたい。
- ・一人一授業を行いたい。（できれば自分の学級で授業を行う前に他の学級でも授業を行ってから）

4 来年度の研究計画（案）について

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
長期目標	研究の共通理解、研修組織としての体制づくりの継続 第3次1年目として、新たな研究の手立ての構築と検証 新たな研究の目標の共有、具体的な指導方法の共通理解			
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して芝川小の研究の共通理解を図る ○新しい研究目標の共通理解を図る ○研究計画を立て、見通しがもてる ○新たに目指す体育授業、道徳授業と、学級指導に関する理論の構築 ○研究の理論と実際 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たに目指す体育授業と道徳授業、学級指導に関する具体的な指導方法、手立ての構築 ○研究の理論と実際 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の実施 ○新たな理論、具体的な指導方法の検証 ○日々の各授業や学級経営上の指導で目指す児童像への具現化に向けた具体的な指導ができるかの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の実施 ○第3次1年目としての成果と課題の共通理解を図る ○第3次2年目に向けた見通しをみんながもてる
具体的な活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの研究の共通目標と共通理解を図る研修を行う ・芝川小の研究とは何か、どう毎日の授業や学級指導を進めていくのか、昨年度までの研究授業等、具体的にどんな教材があって、それは実際にどうするとできるのかの共通理解を図る ・教材や資料の整備の仕方を考える ・研究の課題を踏まえ、新しい研究目標、<u>目指す児童像</u>、体育、道徳、学級経営における指導で、大切にしていきたいことの理論の構築と共通理解を図る ・学級経営研修会で今年度の学級経営上の目標をそれぞれが立てる ・年度当初に学級経営の実際研修を開く 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の共通理解が図られているかどうかの振り返りを行う ・研究授業の指導案検討や模擬授業研修などを通して、新たな研究の視点に関する具体的な指導方法や手立てを考える ・学級経営研修会を行い、自分の今年度立てた目標に対する成果と課題を把握し、2学期に向けて指導方法の改善を図る ・教材や資料の整備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を行う ・新たな研究の目標を日々の体育、道徳授業にも生かしていけるようにする ・一人ひとりが新たな研究テーマに関する授業実践を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を行う ・一人ひとりが新たな研究テーマに関する授業実践を行う ・芝川小の研究の今年度の成果と課題を洗い出し、来年度に向けた方向性を探る ・学級経営研修会を行い、自分の今年度立てた目標に対する成果と課題を把握し、指導改善を図る